

令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

喜茂別町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査日 令和 8 年 4 月 23 日(木)

(2) 調査の目的

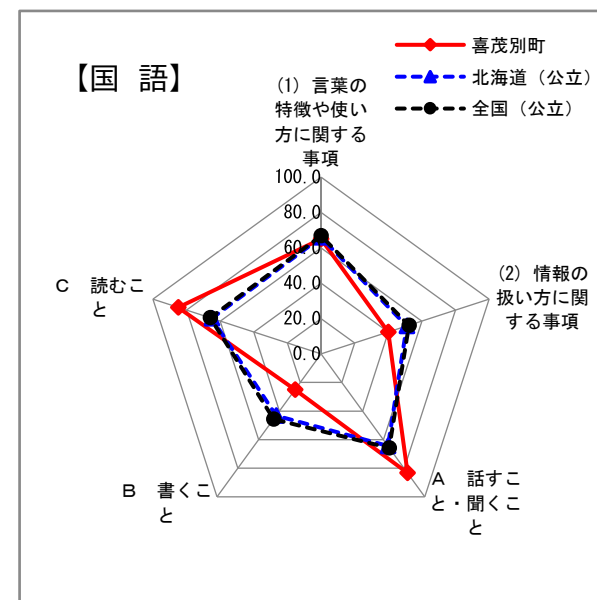
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、本町の児童生徒の状況と比較分析することにより教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにより学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 調査内容

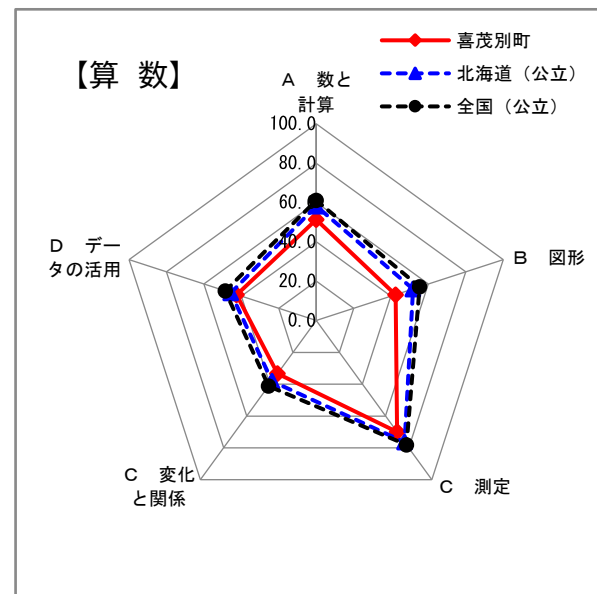
調査対象学年	①教科に関する調査	②生活習慣・学習環境等質問紙調査
小学校第 6 学年	国語	・児童生徒に対する質問調査 (質問数：小学校 73 問・中学校 80 問)
	算数	
中学校第 3 学年	国語	・学校に対する質問調査 (質問数：小学校 85 問、中学校 93 問)
	数学	
	英語	

2 教科に関する調査結果 【小学校第6学年】

教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【国 語】		60.0	60.9	↗	↗
領 域	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.9	66.8	↘	↘
	情報の扱いに関する事項	51.0	52.3	↓	↓
	話すこと・聞くこと	64.4	65.8	↑	↑
	書くこと	43.2	45.7	↓	↓
	読むこと	65.0	65.9	↑	↑



教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【算 数】		54.0	56.4	↘	↓
領 域	数と計算	58.2	61.1	↓	↓
	図 形	51.8	55.3	↓	↓
	測 定	76.4	78.1	↓	↓
	変化と関係	38.1	41.1	↓	↓
	データの活用	45.6	48.6	↘	↓



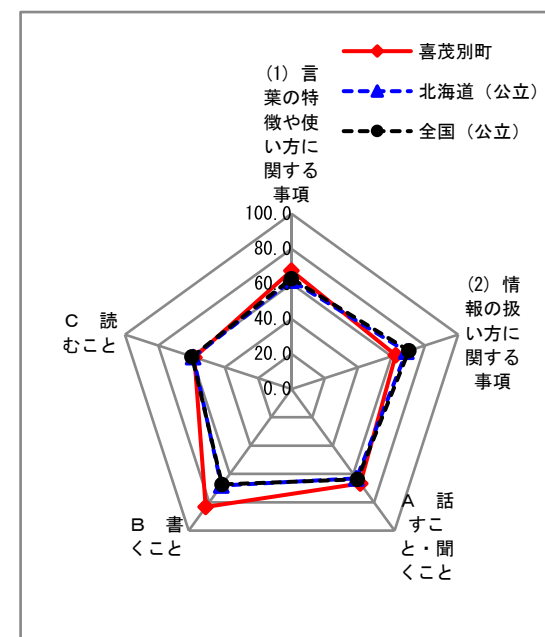
備考 1 本町と北海道または全国の平均正答率の差

①	→	北海道または全国と同じ
②	↗	北海道または全国を0～3ポイント上回る
③	↘	北海道または全国を0～3ポイント下回る
④	↑	北海道または全国を4～7ポイント上回る
⑤	↓	北海道または全国を4～7ポイント下回る
⑥	⇑	北海道または全国を8ポイント以上上回る
⑦	⇓	北海道または全国を8ポイント以上下回る

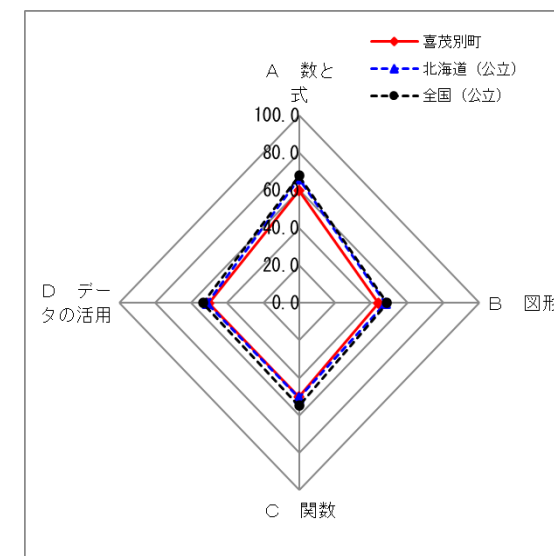
2 領域とは、学習指導要領で定められている指導領域をいいます。

3 教科に関する調査結果 【中学校第3学年】

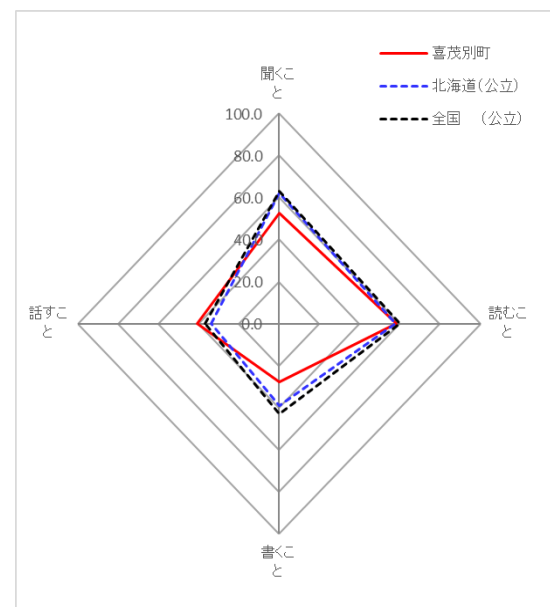
教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【国 語】		63.0	63.9	↑	↑
領 域	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.9	63.0	↑	↑
	情報の扱いに関する事項	69.0	70.4	↓	↓
	話すこと・聞くこと	63.1	63.8	↗	↗
	書くこと	68.2	67.4	↑	↑
	読むこと	59.0	59.7	↘	↘



教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【数 学】		55.0	57.0	↘	↓
領 域	数と式	66.2	67.8	↓	↓
	図形	47.9	48.7	↘	↘
	関数	50.7	54.8	↘	↓
	データの活用	51.3	53.5	↘	↘



教科・領域	I R Tスコア			
	北海道	全国	喜茂別町	
			北海道対比	全国対比
【英 語】	489	499	↘	↓
領域	4 技能平均正答率			
	北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
			北海道対比	全国対比
聞くこと	62.1	62.8	↓	↓
読むこと	58.1	60.0	↗	↘
書くこと	39.1	43.1	↓	↓
話すこと（やり取り・発表）	33.8	36.7	↑	↑



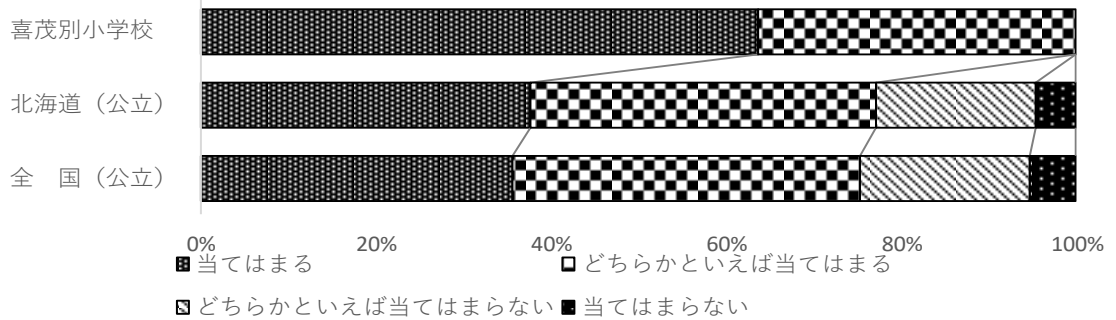
備考 1 本町と北海道または全国の平均正答率の差

⑧	→	北海道または全国と同じ
⑨	↗	北海道または全国を0～3ポイント上回る
⑩	↘	北海道または全国を0～3ポイント下回る
⑪	↑	北海道または全国を4～7ポイント上回る
⑫	↓	北海道または全国を4～7ポイント下回る
⑬	↑↑	北海道または全国を8ポイント以上上回る
⑭	↓↓	北海道または全国を8ポイント以上下回る

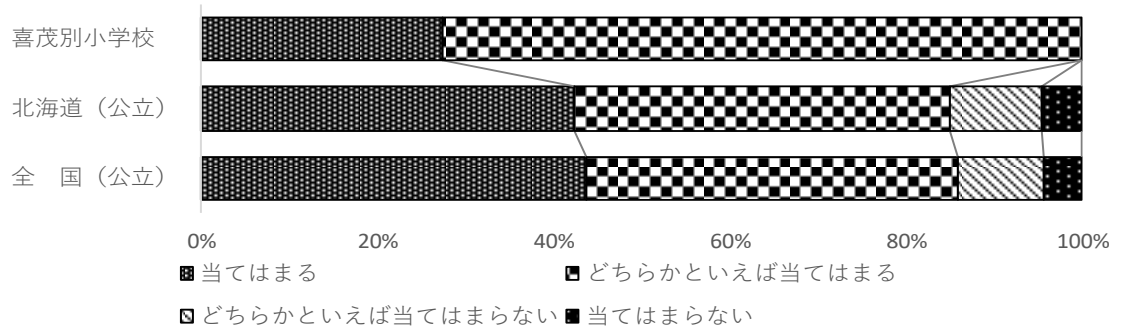
2 領域とは、学習指導要領で定められている指導領域をいいます。

4 分析結果によるこれまでの取り組みで効果があった事項 【小学校 第6学年】												
国語	国語の学力は全国基準を上回っており、これまで進めてきた文章を丁寧に読み、叙述を根拠として考えたり、自分の考えを表現したりする学習の積み重ねが、一定の成果につながっていると考えられる。また、「国語の学習活動」は全国基準を上回っていることから、自分の考えをもち、友達との交流を通して考えを広げたり深めたりする授業づくりについても成果が見られる。											
算数	「算数に関する意識」「算数の学習活動」は、ともに全国基準を大きく上回っている。児童が課題に主体的に取り組んだり、自分の考えをもち、友達と考えを交流したりする授業づくりを進めてきたことが、算数を学ぶことへの意欲や主体的な学習態度につながっていると考えられる。											
児童質問	「主体的・対話的で深い学び」「ICT を活用した学習状況」「自己有用感・心理的安全性等」「向社会性」「学びの自己調整」など、多くの項目で全国基準を上回っている。特に ICT を活用した学習状況の項目では 7.4 ポイントと高い。 これまで進めてきた、ICT を日常的に活用した授業や、児童が自分で考え、友達と交流しながら学ぶ授業づくり、一人一人が安心して自分の考えを表現できる学級づくりが、児童の主体性や自己有用感の向上につながっていると考えられる。											
	○ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか <table><tr><td>喜茂別小学校</td><td> </td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td> </td></tr><tr><td>全 国（公立）</td><td> </td></tr></table> 0% 20% 40% 60% 80% 100% 当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない ○ PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか <table><tr><td>喜茂別小学校</td><td> </td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td> </td></tr><tr><td>全 国（公立）</td><td> </td></tr></table> 0% 20% 40% 60% 80% 100% 当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない	喜茂別小学校		北海道（公立）		全 国（公立）		喜茂別小学校		北海道（公立）		全 国（公立）
喜茂別小学校												
北海道（公立）												
全 国（公立）												
喜茂別小学校												
北海道（公立）												
全 国（公立）												

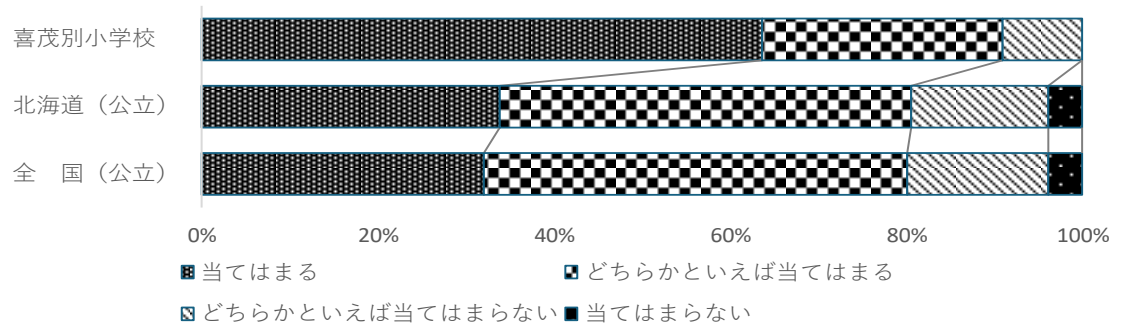
○ ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



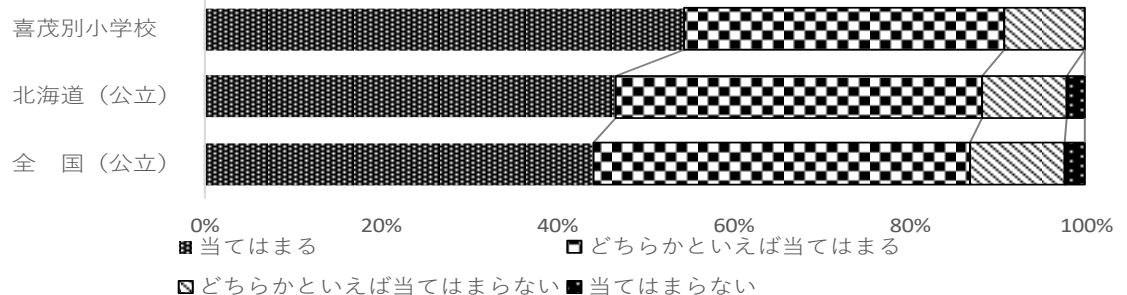
○自分には、よいところがあると思いますか



○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



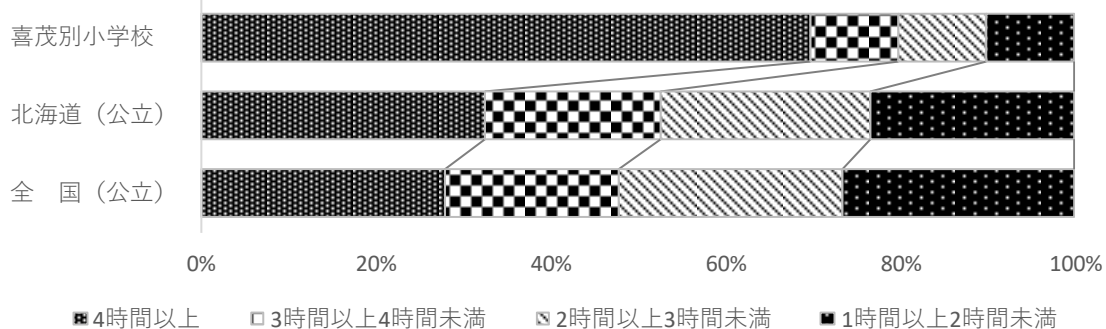
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



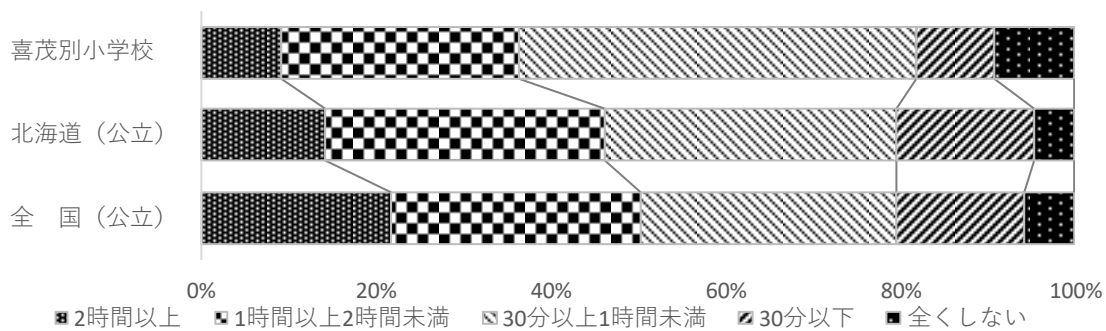
5. 今後取り組むべき事項・改善事項分析結果による 【小学校 第6学年】

国語	学力や学習活動が比較的良好である一方、「国語に関する意識」は全国基準を下回っている。今後は、知識・技能の習得だけでなく、「わかった」「伝わった」「考えが深まった」と児童自身が実感できる授業づくりを一層進める必要がある。 そのため、目的や相手を明確にした言語活動や、文章の叙述を根拠に自分の考えをもち、他者の考えと比較・関連付けながら自分の考えを再構築する活動を充実させ、国語で学ぶことのよさや楽しさを実感できる学習につなげていく。																				
算数	算数に対する意識や学習活動が良好である一方、算数の学力は全国基準を下回っており、「意欲的に学んでいること」を「確かな理解・定着」につなげることが課題である。 今後は、答えを求めることだけでなく、「なぜそのように考えたのか」を図・式・言葉等を関連付けながら説明する活動を重視する。また、学習の終末に「何がわかったか」「どの考え方が使えるようになったか」を児童自身が振り返る機会を設け、学習内容の定着を図る。 さらに、誤答についても教師が正解を示して終えるのではなく、児童自身が誤りの原因を捉え、修正する活動を取り入れることで、既習事項を活用して問題を解決する力の育成につなげる。																				
児童質問	学校での学びに関する項目が良好である一方、「生活習慣」「学習習慣」は全国基準を下回っている。 学校では主体的に学ぶ姿が育っていることから、今後はその力を家庭での生活や学習にもつなげていくことが課題である。 児童自身が自分の生活時間や家庭学習を振り返り、「自分には何が必要か」「どのように取り組むか」を考えて目標を設定し、実践後に振り返って改善する取り組みを進める。 また、生活習慣や家庭学習について家庭とも結果を共有し、学校と家庭がそれぞれの役割を確認しながら、児童の自己調整する力を育てていく。 ○ 朝食を毎日食べていますか <table><thead><tr><th>項目</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>喜茂別小学校</td><td>65%</td><td>25%</td><td>5%</td><td>5%</td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td>80%</td><td>15%</td><td>3%</td><td>2%</td></tr><tr><td>全国（公立）</td><td>82%</td><td>12%</td><td>3%</td><td>3%</td></tr></tbody></table>	項目	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	喜茂別小学校	65%	25%	5%	5%	北海道（公立）	80%	15%	3%	2%	全国（公立）	82%	12%	3%	3%
項目	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない																	
喜茂別小学校	65%	25%	5%	5%																	
北海道（公立）	80%	15%	3%	2%																	
全国（公立）	82%	12%	3%	3%																	

○ 平日、どれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか

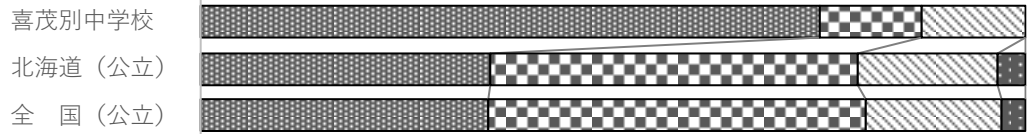


○ 平日、どれくらいの時間、勉強をしますか

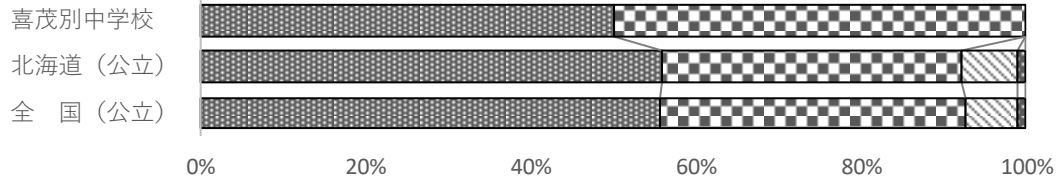


6 分析結果によるこれまでの取り組みで効果があった事項 【中学校第3学年】	
国語	○助動詞の動きや単語の類別・活用の理解についての正答率が高かったことから、言葉の特徴や使い方に関する事項について日常的に指導したことが好結果に繋がったと考えられる。 ○「表現の効果や段落相互の関係を明確にして文章の展開を工夫すること」の正答率が全国平均よりも高く、正答率も80%以上であった。このことから、ICT機器を活用してわからない表現を調べたり、文脈上の意味を考えて表現を工夫したりするなど、表現力や語彙力を少しずつ高めてきたことが好結果に繋がったと考えられる。
数学	○正の数と負の数、同類項の意味など、数と式に関する基本的な理解力の部分は正答率が70%を越えていたことから、日常の授業において実践している知識技能の定着が、少しずつではあるが実を結び、好結果に繋がっていると考えられる。 ○図形の証明問題では、学習した知識を少しでも工夫して記述しようとする形跡がみられ、根拠を持って文章を書くことができるようになっている。ワークシートの工夫や授業内の協働的な活動が少しずつ技能の定着に繋がっていると考えられる。
英語	○「聞くこと」の調査から、注文する場面での会話を聞き、客の注文を聞き取る問題では正答率が高かった。 ○「読むこと」の調査から、文章を読み、グラフに入る学校行事を適切に選択する問題の正答率が高かった。 ○上記から、日常的な話題についてコミュニケーションを取ることや、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を英語の技能として活用できる力が定着してきていると考えられる。
生徒質問	○基本的生活習慣(朝食を摂る、決まった時間の就寝・起床)は、ほとんどの生徒が身についていると回答。 ○「自分には良いところがある」との設問にも、ほとんどの生徒が「ある」「どちらかといえばある」と回答したことから、自己肯定感は比較的高い。 ○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の設問では、回答した全ての生徒が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答から他者の意見を受け入れ、尊重する力が身についてきていることがわかる。 ○「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」の設問では、回答した全ての生徒が「あてはまる・どちらかというにあてはまる」と回答から、個々の学びは実感できていることがわかる。

○毎日、同じ時間に寝ている

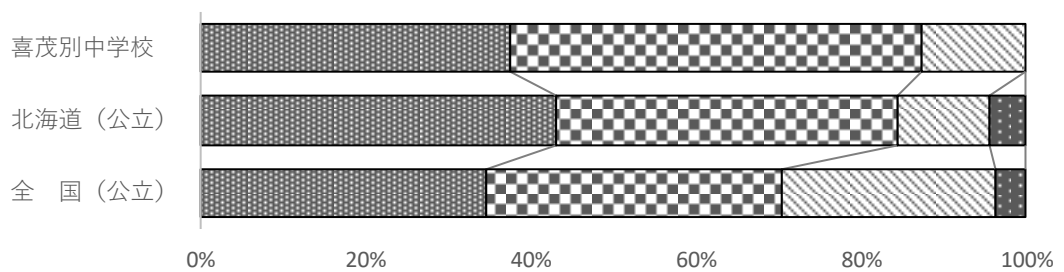


○毎日、同じ時間に起きている



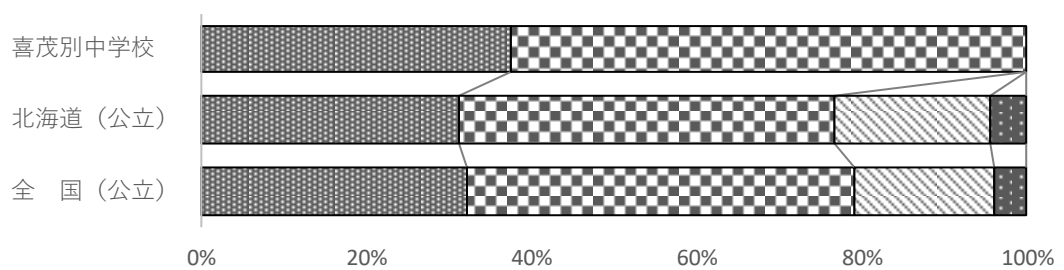
■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

○自分にはよいところがある



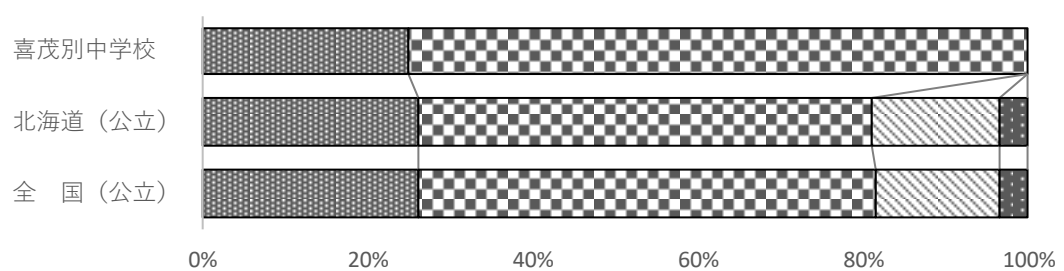
■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

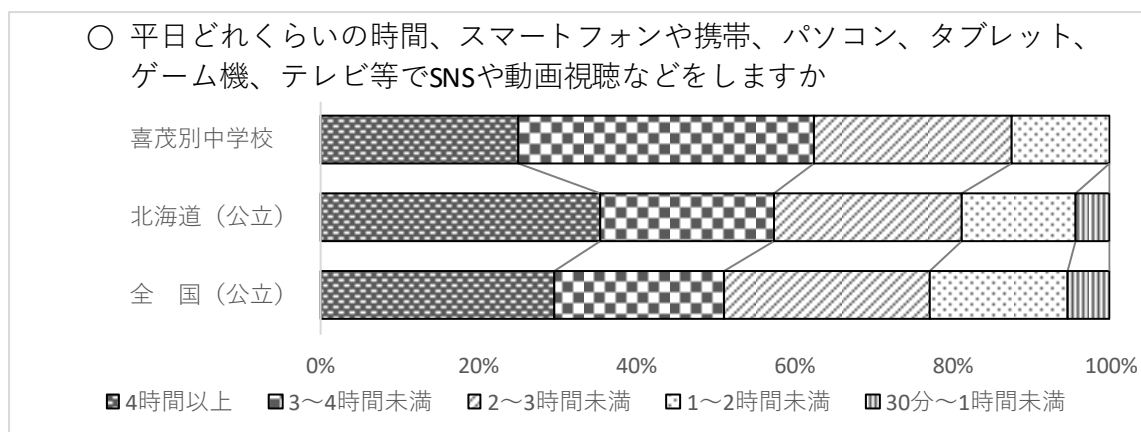
○授業は自分にあった教え方、教材、学習時間となっていましたか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

7 分析結果による今後取り組むべき事項・改善事項		【中学校第3学年】																				
国語	○条件を満たして解答する問題において、2つの条件のうち1つの条件しか満たさずに解答する生徒が多かった。文章を読んで理解したことに基づき、具体的な事例について考えることはできるので、その事例を抽象化し、自分の考えとして確かなものにすることができるよう授業展開を心がけていく。 ○選択式、短答式と比べ、記述式の正答率は50%に届いていない。このことから、考えをまとめて表現する力の育成にもっと力を入れていく必要がある。自分の考えや意見を自分なりの言葉で伝える表現活動を授業中に取り入れていきたい。																					
数学	○反比例の表を埋める問題では正答率が低く、反比例の関係を表として捉える力に課題が見られた。また、記述問題についても難易度は高くないにもかかわらず、誤答や無回答が多く見られた。これらの結果から、関数分野における基礎的な理解や、それを表現する力が十分に定着していないと考えられる。基本的な部分を復習する機会を設け、苦手を減らしていく。 ○無回答の多くが記述式に集中しており、知識自体は有していても、それを文章で説明することへの苦手意識が高いと考えられる。記述力を高めるための指導や練習を継続的に行っていく。																					
英語	○「読むこと」において、物語文を読み、全体を通した登場人物の心情の変化を読み取る問題を苦手とする生徒が多かった。 ○「書くこと」において、書き手が最も伝えたいことを読み取り、要点を捉えて文章で書く部分において、正答率が低かった。 ○上記の結果から、短い文章を読んで概要を捉え、自分で考えて英文で表現する力に課題がある生徒が多いと推察される。英文を書かせる指導を継続的に行っていく。																					
生徒質問	○「学校に行くのが楽しい・どちらかというとな楽しい」との設問では、全国平均よりも低い数値となった。前述のとおり、「学ぶ楽しさ」は個々に実感できていることから、「学ぶこと」以外の要因が考えられる。校内での相談体制を整え、きめ細やかに生徒たちの様子を見取れる体制を整えていく。 ○学校に行くのは楽しいと思いますか <table><thead><tr><th>グループ</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>喜茂別中学校</td><td>38%</td><td>32%</td><td>20%</td><td>10%</td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td>42%</td><td>35%</td><td>15%</td><td>8%</td></tr><tr><td>全国（公立）</td><td>45%</td><td>38%</td><td>12%</td><td>5%</td></tr></tbody></table> ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない		グループ	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	喜茂別中学校	38%	32%	20%	10%	北海道（公立）	42%	35%	15%	8%	全国（公立）	45%	38%	12%	5%
グループ	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない																		
喜茂別中学校	38%	32%	20%	10%																		
北海道（公立）	42%	35%	15%	8%																		
全国（公立）	45%	38%	12%	5%																		

○普段、スマートフォン等でSNSや動画視聴を行う頻度について、全道・全国平均と同様、2時間以上の生徒が80%を超える。



○一方で、普段の学習時間が1時間未満の生徒が約87%。土日など学校が休みの場合には「まったくしない」という生徒も10%程度いる。
そのため、今後もスマートフォンの使い方や家庭学習の重要性については、家庭と連携して引き続き指導していく。

